

「東白川村国保診療所並びに介護老人保健施設竣工式」式辞

本日ここに、東白川村医療福祉ゾーン整備事業の第一次事業として、「東白川村国保診療所並びに介護老人保健施設」の竣工式を挙行致しましたところ、このように多数の皆様にご出席を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本工事は東白川村にとって永年の懸案事項であり、多くの歳月と労力そして資金をかけて建設してきたものであります。

思い起こせば、高齢者比率40%を超えています本村の高齢者の皆様の切なる要望として、老人施設の建設についての「請願」が出されましたのは平成 26 年でした。

これを受けて東白川村社会福祉医療施設等整備基金を平成 26 年 3 月に設置、その後、私が就任早々ではございましたが、庁内に「東白川村の老人施設を考えるプロジェクトチーム」を設置し検討を開始しました。このプロジェクトチームからは、現在の診療所とは別の地に、老朽化した介護老人保健施設の更新とこれに併設した診療所の建設が望ましいという内容の答申がされました。

これを受けて早速、建設用地の確保に入り、名古屋商科大学の栗本学長様にこの土地の活用についてお願いを致しましたところ、村の保健福祉、医療の実情について大変な御理解と御協力をいただき、5,700 坪という広大な土地を御寄附していただきました。このことにつきましては村民を代表して深く感謝申し上げます。この五加の地が栗本学園発祥の地であることを顕彰するとともに、将来にわたり医療福祉ゾーンとして計画的に整備し活用してまいりたい事を約束いたします。

その後、庁内プロジェクトチームの答申を受けて、整備計画を樹立するにあたり福祉関係の大学の先生方や老人福祉施設の経営者の方など村内外の有識者の皆さんに専門委員をお願いし、村の将来においてこの分野の「あるべき姿」について検討していただきました。その結果、先ほど申し上げました庁内プロジェクトチームの答申内容を支持するというご結論を頂きましたので、平成 28 年 12 月に東白川村医療福祉ゾーン整備計画を樹立し議会の承認も頂きました。

その後、村内各地での集落座談会での説明、地元委員による建設委員会、村議会での検討、診療所長をチーフに庁内での度重なる議論を重ねて平成 28 年度に基本設計を策定、平成 29 年度の実施設計を経て、平成 30 年の 5 月には、建設

用地の整備に着手し、本体工事は平成 30 年 8 月 7 日に起工いたしました。その後、本日まで約 1 年 6 か月の時間をかけて工事を進めてまいり、このように大変素晴らしい環境をもつ施設の完成を見ることができました。

これもひとえに用地の寄附をいただきました名古屋商科大学様、整備計画樹立に御尽力をいただきました専門委員の皆様、建設委員の皆様そして重要な決定ごとに真摯な議論と助言を頂いた村議会議員の皆様、地元五加区の皆様、関係職員各位の御努力、御尽力の賜物であり、ここに深く感謝申し上げる次第であります。

この医療福祉ゾーン整備事業は、単なる施設老朽化による建替えではなく少子高齢化、超人口減少時代に向かう東白川村にあって、その流れに歯止めをかけ、東白川村民と周辺地域の皆様の健康と福祉を守る替えがたい財産を作る事業であります。設計、監理をお願いしました株式会社岬建築事務所様、本体の建物の建設工事を施工されました中島・曙・立保特定建設工事共同企業体の皆様、そして付属工事や関連工事を施工いただいた株式会社立保様、有限会社ナカシマ様、有限会社新田建設様はじめ、付帯工事に携わられた各社におかれましてはその卓越した技術と熱意でもって無事故で本工事並びに関連工事の立派な完成をいただき、改めて感謝の意を表すものです。また、工事期間中は地元の皆様には何かと御協力と御理解をいただきましたことに厚く感謝申し上げます次第であります。

結びに本日御参集の皆様の御健勝と、この診療所と介護老人保健施設が皆さまに愛され地域の医療福祉介護の要として益々発展することを祈願いたしまして私のあいさつとします。

令和元年 10 月 13 日

東白川村長 今 井 俊 郎